

インターネットで本を買い、iPad (アイパッド) など持ち運べる端末や携帯電話で読む。そんな本の読み方ができるようになりました。技術の進歩は、読書のスタイル、本や図書館の在り方を変えていくのでしょうか？
今回から「デジタル時代 あなたの読書は？」



をテーマに意見交換します。11月27日には小布施町の町立図書館「まちとよテラソ」で地域討論会「Wa (輪・話・和) の会」を開きます。紙の本の良さ、電子書籍の利点を踏まえて、デジタル時代の本と図書館についてあれこれ語り合いませんか？

デジタル時代 あなたの読書は？



シンポジウムのパネリストから

龍鳳書房(長野市)社長

酒井 春人さん(61)



生き残るため準備急ぐ

小布施町立図書館「まちとよテラソ」館長

花井 裕一郎さん(48)



図書館 情報発信拠点に

国立情報学研究所連想情報学
研究開発センター研究員

中村 佳史さん(33)



中身と編集の力が勝負

若い世代にとってパソコンなどの情報端末は日常的なツール。本を電子化することで、二対一に対応できるならば準備を進め、9月に既刊の「安曇族と徐福」をiPad向けの電子書籍として出しました。写真がオールカラーになり、付せんやしおりを付ける機能もありません。値段は紙の本のほぼ半額です。

地方の出版社にとっては、ネット上で販売すると全国から簡単に注文が受けられるので、流通の面で大きなメリットがあります。印刷や配本のコストが抑えられますが、アットブル社などに支払うお金を考えると収益は同じくらいです。若い世代がゲーム感覚で、本はおもしろいと思ってくれればうれしいです。また、年配者が迎えるわけではありませんが、流れる押し売り感を感じることがあります。中小の出版社が生き残るためには、準備を急ぐ必要があると思います。

「まちとよテラソ」ではiPadを最初から導入し、その後書籍を計4台となり、1日1回30分限りの館内貸し出しをしています。著作権の問題があり電子書籍は入れていませんが、ユーチューブやインターネットが使えます。地方ではiPadに触れる機会が限られている。だからこそ図書館で新しい道具に接する場を提供したい。紙の本も電子書籍もそれぞれ良さがあり、どちらかではなく、新しいツールが増えたのだらう。

この図書館は町民が会議や視察を重ねて、作り上げてきました。「わくわく」をキーワードにいろいろな仕掛けをしています。本を貸し出す場所というだけのイメージを脱し、人が集まり、情報発信する拠点として、今回のように時間を区切って館内でシンポジウムを開いたりもしています。小布施の文化をデジタル化して収集し、発信する仕事にも取り組んでいます。町の地図から観光情報などを検索できる「小布施すずらり」をiPad、iPhone上で公開し、まちづくりにかかわった人々を紹介する電子書籍「小布施人自選」に取り組みしています。個人情報保護や著作権の課題はありますが、こうした情報発信ができれば、電子書籍の利点だと思えます。紙と電子書籍どちらがもつかるかといったビジネスの目線で見るとは、生活の中で新しい道具をどう生かすかを考えていきたいと思います。

キーワードや文章を元に、信頼性の高い情報を探す手助けとなる「連想検索」の技術を使い、図書館、美術館などをつなぐ仕事をしています。このシステムを使ったのが「まちとよテラソ」にある「想RFIDシステム」。新書を手で分類してデータベースの「書籍」を作り、関連する本を提示する。「新書マップ」、全国の大学図書館にある本の検索システム、文化遺産オンラインなどから、関連した情報を採り出すシステムです。小

布施町の古地図や地域の人の記述をデジタル化する仕事にも関わっています。ヤフーなどの検索サービスは、基本的にキーワードのあるなしで情報を絞り込んでいきます。「連想検索」では物事を多面的に見て、集めた情報から関連する文化財や図書館につなげる探索ができる。発信を促すことができる。「刺激」を与えることが、電子化で表現できる手段が広がったと考えれば、読まれるかどうかは、結局中身と編集の力によると思います。

第13回地域討論会「Wa (輪・話・和) の会」は、「デジタル時代の未来を語ろう」をテーマに11月27日、小布施町の町立図書館「まちとよテラソ」で開きます。電子書籍元年と言われていますが、本と図書館はどう変わるのでしょうか。ざっくりはらんに意見交換します。

午後1時からシンポジウム。パネリストは国立情報学研究所連想情報学研究開発センターの中村佳史さん(東京、龍鳳書房社長の酒井春人さん(長野市、まちとよテラソ)館長の花井裕一郎さん(小布施町、電子書籍の登場で、本と図書館にどんな影響があるか、最近の取り組み報告とともに、参加者と意見を交わします)。

第13回「Waの会」



Waの会を開く「まちとよテラソ」の館内。さまざまな新しい取り組みに挑戦している。

小布施で27日「本の未来」語ろう

午後3時から分科会。テーマとぶくろいど。講師・伊那市高遠町で本のプロジェクトに取り組む木暮博司さん、それぞれ輪読局地域活動部「Waの会」係、はがき、フックス、メールで参加無料、聴講券を送ります。シンポジウムのみの参加も可。問い合わせは関係(026)2336-3110、日・祝日でテイクアウト。③本のまち トレーニング(11時半から)、信

午後3時から分科会。テーマとぶくろいど。講師・伊那市高遠町で本のプロジェクトに取り組む木暮博司さん、それぞれ輪読局地域活動部「Waの会」係、はがき、フックス、メールで参加無料、聴講券を送ります。シンポジウムのみの参加も可。問い合わせは関係(026)2336-3110、日・祝日でテイクアウト。③本のまち トレーニング(11時半から)、信

会場の「まちとよテラソ」町民参加交流と創造の場

町役場内にある旧小布施町立図書館を、2009年7月に隣接する敷地に移転、新築。町民参加の意見交換会、視察を重ねて理念「照らし出す場」「小布施から世界へ」や設計・運営方針などをまとめたのが特徴。生涯学習の拠点と位置づけられている。館長は公募で選ばれた。

投稿お待ちしております

募集中のテーマは「デジタル時代 あなたの読書は？」です。パソコン、

携帯電話、iPadなどで、電子書籍を読んだことがありますか？ 小説を読むには紙の本と端末で、どちらが好きですか？ 本の電子化で図書館の役割も変わる可能性があります。デジタル時代の読書について、みなさんの意見や体験談を募集します。投稿は400字程度で、住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記。紙上匿名可。掲載分には謝礼を送ります。

信毎ホームページ (http://www.shinmai.co.jp/) の「クリック！ ネットで一言」でも「電子書籍を読んだことがありますか？」で意見募集。あなたの1票とコメントをどうぞ。

濃毎日新聞社の書籍販売があります。